

鮭 鱒 彙 報

第 八 年 第 二 十 八 號

昭和十一年一月三十日

北海道鮭鱒保護協會

(膽振國千歲村北海道鮭鱒孵化場內)

目 次

鮭鱒沿岸漁業の更生策	論叢	半田芳男	(一)
鱒の陸封に就て	資 料	理學博士 藤田經信	(五)
北見地方の鮭鱒孵化事業に對する障害		小林教司	(八)
樺太鮭千歲川にて捕獲せらるる		櫻井基博	(一)
鹹淡水往來(一)	趣 味	海原 茫	(三)
本道沖合の鮭鱒漁獲狀況	彙 報		(五)
昭和十年度北千島鮭鱒漁業成績			(六)
標識鮭の再捕			(七)
昭和十年度鮭鱒孵化事業概況			(七)
昭和十年度民營鮭鱒孵化事業概況			(九)
昭和十年度民營鮭鱒孵化事業概況			(一)
支笏湖鮭鱒親魚の減少			(三)
網走孵化場の公開と親魚廉賣			(三)
本會顧問委嘱	會 報		(四)
事務委員の囑託			(四)
地方委員の囑託			(四)
會員消息			(五)
會費領收報告			(五)

北海道鮭鱒保護協會々則

- 第一條 本會ハ鮭鱒其ノ他ノ養殖事業並鮭鱒漁業ノ改善發達ト關係業者ノ連絡緊密ヲ圖リ以テ漁利ノ維持増進ヲ期スルヲ目的トス
- 第二條 本會ハ北海道鮭鱒保護協會ト稱シ北海道鮭鱒孵化場内ニ置ク
- 第三條 本會ハ北海道鮭鱒孵化場親魚捕獲受託者、鮭鱒漁業者及鮭鱒其ノ他ノ養殖事業並漁業ニ關係ナ有スル者ヲ以テ組織ス
- 第四條 本會々員ノ種類ヲ左ノ如ク分ツ
- 一 一種會員 親魚捕獲受託者、鮭鱒ノ免許漁業者及鮭鱒其ノ他ノ養殖事業經營者
- 二 二種會員 鮭鱒其ノ他ノ養殖及漁業ニ關係ナ有スル者
- 三 本會ハ其ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ
- 一 鮭鱒其ノ他ノ養殖及漁業ニ關スル調査、試験研究、鑑定、紹介及質疑應答
- 二 種卵、種苗ノ配給斡旋
- 三 機關誌及有益ナル圖書ノ刊行
- 四 官廳ノ諮問ニ應シ又ハ意見ヲ開陳ス
- 五 其ノ他必要ト認ムル事項
- 第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 一 會長 一名
- 二 理事 若干名(内一名ヲ理事長トス)
- 三 役員ハ總會ニ於テ會員中ヨリ選舉ス
- 四 理事長ハ理事中ヨリ會長之ヲ指名ス
- 五 役員ノ任期ハ五年トス
- 第七條 總會ノ決議ニ依リ本會ニ顧問ヲ置クコトヲ得
- 第八條 會長ハ本會事務ヲ擔當スル者ヲ任命又ハ囑託スルコトヲ得
- 第九條 本會々員ハ左記ニ依リ會費ヲ負擔スルモノトス
- 第十條 一種會員 親魚捕獲受託者ハ當該孵化場ノ設備ニ應ジ別表ニ依ル
- 一 種會員 鮭鱒漁業者ハ免許漁業權各一ケ統ニ付キ年額金一圓トス
- 二 種會員 但シ一人最高負擔額ハ金五拾圓ヲ超ヘサルコト
- 三 養殖事業經營者ハ年額金五圓
- 四 一種會員 年額金一圓
- 第十二條 本會々計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第十三條 毎年一回總會ヲ開キ會務ニ關スル決議ヲ爲ス外必要ト認ムル協議 研究ヲ行フ
- 第十四條 會長ニ於テ必要ト認ムル場合ハ隨時役員ヲ開キ會務ヲ處理ス



捕魚車

千歳川に於ける鮭親魚捕獲用
にして遡河魚を掬ひ取り自働
的に生簀に收容す。
我邦唯一の漁法なり。

論 叢

鮭 鱒 沿 岸 漁 業 の 更 生 策

半 田 芳 男

原始産業振興の根本條件は極めて簡單である。即資源の維持増殖に在る。資源の涸渇を袖手傍觀して居て産業の發展は期し得ない。殊に漁業に於て此感を深くする。

鮭鱒漁業の維持増進の基礎は其の資源たる鮭鱒の種を絶さぬため否これを増殖するために蕃殖用親魚を安全に遡河せしめねばならないことは今日では常識と言ふてよい位の事柄であるが實際にはウマク行つてないために漁獲が脅されてをる。本道の實例に徴すれば明治二十年頃の鮭鱒漁獲高と現在のそれとを比較するときは約四分の一に減つてをる。然もこれが明治四十年頃の最衰退期と比較しては三倍位に増加して居てさへ斯様な状態である。而して漁獲力に於ては以前に比較しては問題にならぬ位の増加である。漁獲物の價格は遙に騰貴してをると云ふたところで經營費も同時に多く要するから漁業の利益は昔日の比でない。有名

なる鮭鱒漁舎の多くは朔風に寂しく傾きたる軒を曝らしてをる状態が到る處に觀ることは之を雄辯に物語つてをる。

唯鮭鱒を商品化する一部分の者のみが益々儲かるのが現在の姿である。處理加工の技術的進歩や消流販賣機構の合理化は勿論著しく發達してをるが之が漁業者に幾何の利益を分配さるゝであらうか。資本的經營の下に漁獲から消流まで一手に行ひ得る者は別として所謂漁師はむしろ被搾取階級に墮したと云ふても必ずしも過言でなからう。

之は要するに漁獲數量の減少に基因するものであつて加ふるに漁業の合理化が後れてをるためと考へられる。漁獲の減少に依る収益の減退は加工消流に依つて補ひ得ることは或程度迄は出来るが永續性はない。然も加工消流の仕事は已に漁業者の業務から次第に分離して行つてむしろ工業化しつゝある現状に於ては漁業者は何としても漁獲の維持

増進の一手に依つて活きねばならない。

漁業は投機的性質を帯びてをるとか偶然性が濃厚で危険であるとか謂はるゝが之は年々歳々来るものを待つて漁る事に執着するため然も蕃殖保護を輕視し唯自然に委する資源維持法に頼るためであると思ふ。来る前に之が根據地なり魚道なりを發見して此處に進撃するときは奏効は余程確實となることは最近の沖取漁業の實績を觀れば明瞭である。殊に鮭鱒沖取の好成績は著しいものがある。然し之とて果して何時迄続くか恐らく何人も永遠の好調は期待し得ないだらう。左様なると結局は確實なる維持策として資源の涵養が重要となる。

最近の鱒漁業の隆昌は本道水産界に於ける輝かしい存在であるが之とて無盡藏ではあり得ない。此の群影が本道沿海から姿を失ふ日なしと誰か斷言出来やうか。現に本年度は甚しい悲況を傳へられてをる。この悲況は一時的のもので水温の過低に依る現象であつて此種の如き大洞游を爲すものは敢て減少を憂ふる必要ないと言はるゝかも知れないが然らば鱒漁業は如何。日高沖合の鱒漁業は如何。前者の減産は現在の事實であつて周知のものであるが之が二十年前に於て今日の衰態を想像した鱒漁業者があつたらうか。又日高沖合に之亦二十年以前に來游した鱒がその後全く跡

決して間に合はぬ。之が如に作物を蒔いて秋に收穫するとは時間的に差がある。水族の増加は多く數年以上の努力を必要とする。

斯く述べ來れば漁業が永續する限り魚族の維持増殖は繼續的に行つてをる必要がある事となる。然らば鮭鱒漁業に就て觀るときは鮭鱒類は他の魚族に比較して減耗し易い習性を有する關係上特にこの努力が緊要である。むしろこの見地より昔から鮭鱒漁業の維持には相當力を盡してはをるが遺憾ながら未だその目的を達する域に至つてをらない。

鮭鱒蕃殖に關する理論は學究的には兎も角として實際的には可なり整然としてをる。技術としても効率の多い方法が種々研究されて應用されてをる。而して豫期の効果が擧げられないのは何に因るか。左に主なる原因とその對策とを擧げて見る。

一、鮭鱒漁業者は蕃殖保護への關心を更に増大する必要ある。

多くの鮭鱒漁業者は蕃殖保護就中人工孵化は漁業の維持増進に効果ある事を充分承知してをるが之を實際に如何なる程度迄貢獻してをるかは相當考へさせらるゝ問題である人工孵化は役所か組合でやつて呉れる又取締は官憲がやつて呉れる自己は唯漁獲すればよいと云ふ考へでをる者が無

を絶つに至つたことを何と見るか。

斯く大洞游を爲す魚種に於てさへ漁獲の消長は端倪すべからざるものがあるとしたならば定地的に沿岸に來游するものは磯付のもの或は内陸水面のものに至つては棲息數量の減少し易い狀況の下に在ることは明かである。その代り之等のものは蕃殖に留意すれば恢復も比較的容易である。近來昆布、海蘿、銀杏草等の海藻類や鮑、牡蠣等の貝類や局部的に來游する厚岸鱒等或程度の蕃殖保護並に増殖に努むれば増産の結果を得らるゝ例がある。殊に鮭鱒の如きは人工孵化に依つて多大の効果を收めてをる。

從來の水産振興は唯増産の一路を進むことに在るのは間違つてをる。増産の結果は皮肉にも豊漁饑饉となるではないかと云ふ聲を聞く。勿論理窟のある意見ではあるが陸上原始産業に依る原料過剰の現象と同一視するの見解と思ふ海を自然の倉庫として過剰の資源を此處に貯藏する策をとれば増産は決して處理の困難を伴はない。過剰を海にそのままに放置することは一見不經濟に似て其の實は決して然らざるものである。自然蕃殖が行はれる。母体は斃死分解して海水への肥料となつて次期資源へ役に立つ。決して無駄にならない。而して一朝凶漁時には何時でも漁獲力の増加に依つて増産を期待し得るのである。但しこの不時への準備は其の時になつて急に増産を實施する泥繩式増産では

いと云へぬ。漁場の位置、漁法等に就て往々違反行爲を見聞するに徴しても以上の事が窺はれる。

人工孵化は自分の漁業の爲に行はれてをると云ふ事により深くより確かなる關心を持ち人工孵化に進んで協力を爲すの努力を拂ふことが必要である。

二、鮭鱒漁業の合理化促進の急務。

統制經濟時代なるが故に云ふわけでないが鮭鱒漁業の衰退に鑑みて之が統制を圖ることは極めて緊要と信ずる。本道の鮭鱒漁業の狀態を觀るに現在では優良漁場は多くは河川附近に限らるゝのみならず東西兩沿岸の漁況は豊凶相反しオコソク海沿岸は大休西海岸に似てをるがこの兩者の中間に在ると云ふ事實や孵化放流數の多寡が四、五年後の漁獲の豊凶に比例する事實等を擧げるときは現在の様に小區域に孤壘を守るの戦法は極めて不利であることが解る。鱒に就て觀ると樺太鱒漁獲區域は豊凶は交互の年に現はるゝが櫻鱒漁獲區域は漁獲量少ないが大休平均してをるから之亦統制するを有利と考へる。即全道の沿岸鮭鱒漁業を統制して優良にして有利なる場所及年に漁獲に主力を注ぐことにするときは蕃殖用親魚を残すにも有利であるのみならず處理加工及販賣にも有利となり最大の利益を擧ぐることは出来る。唯全道鮭鱒漁業の統制は實際問題としては實行上困難を伴ふことは明かであるがこの困難を打開して行くこ

とは不可能でない。要はこの方面に一致して邁進するに在る。程度の如何に依つては地方的の統制を第一歩として漸進することもよいと思ふ。

問題は沖取漁業の勃興に對する沿岸漁業の關係であるが之は今後の調査研究の結果に依つて善處すべきであるが沖取數量を或程度に制限する策をとり以て沿岸漁業の安定を期する暫定方法に依つて統制沿岸漁業の經營安全線を定むべきである。徒らに沖合漁業の進展を氣にして遼遠姑息なる態度をとる事は沿岸漁業を益々衰退の彼方へ引き込むのであらう。

三、漁撈方法の改善を圖ること。

前項に述べた統制に伴ひ必然的に優良漁場を經營することゝなるが更に施網方法の改善、漁期の延長等に就て講究する必要あるかと思ふ。已に一部の漁場では施網方法に改良を加へ多大の効果を收めつゝあるところもある。又場所によりては切り上げが早過ぐると思はるゝ所もある。一時魚群が切れても後に來游することは隨所にある。之等は後に河に入つて孵化場の親魚として捕獲せらるゝのであつて蕃殖上には好都合であるが此親魚の一部を漁獲して以て漁業經營の安定に資すると共に熟卵を孵化に供すると云ふ方法も考へてよいと思ふ。唯一、二項に述べた事柄を併せ行ふことを條件とせねばならぬ。

四、蕃殖保護の徹底を期すること。

本道に於ける鮭鱒蕃殖保護の制度の樹立は他の漁業に對するそれよりも遙か以前でもあり又嚴重精細なる考慮を拂はれたことを認めるが近年の鮭鱒漁業の隆昌と鮭鱒蕃殖に對する障害の増加頻發とはこの制度の革新を要する秋ではないかと思ふ。最近行はれた孵化事業の官營移管はその表はれの一であるが之とて今一息と云ふところに停頓してをるから之を整備すると共に本道鮭鱒漁業を安定せしめる程度迄に擴張する必要ある。尙千島方面に於ては天然蕃殖の効果は充分期待し得る状況にあるから此方面に今一層積極的に手を延ばす必要があらう。

漁業政策や制度に關しては漁業の免許許可を更に一層適正にすると共に既設のものゝ整理も必要である。取締規則の改正と漁業監督制度の確立とを望む。又鮭鱒漁業及蕃殖に對する各種の障害との關係に於ては水産方面が常に不利の立場に在る點に鑑みてつと有利に協調する方策を講究する必要ありと認める。

尙理想を述べるならば鮭鱒孵化事業の實施は各地方廳に於て個々に施行するよりも中央政府が之を統制して充分堅實なる事業として行ふべきであると考へてをる。

五、一般人の關心の増大を圖るを要す。

海岸の人々は可なり漁業資源の維持に就て好意的關心を之を要するに最も古く開けた本道の鮭鱒沿岸漁業は衰へたりと雖も産業として重要位置を確保して居ることは之が蕃殖施設の恩恵であることは否めない。鮭鱒漁業の衰態に比して此點は聊か安心出来るかも知れないが時代は現勢變守を許さぬ。須く當業者諸君の奮起と當局の指導とに依つて歴史ある本漁業の維持増進を期すべきである。

資 料

鮭の陸封に就て

理 學 博 士 藤 田 經 信

本文は本年七月十八日日本會第七回總會に於ける藤田博士の御講演の要旨を速記したのである(文責記者) 近來鱒の池中養殖が盛になつて本州に於ては一の産業となつて居るが本道に於ても今後斯くなる事と思ふ。ドイツデンマークに於ては以前より行はれて居るものである。

鱒は一生涯淡水に棲息する様子になつた事に就ては深く

研究されたものはない。元來水産は他の學問と異つて實驗が非常に困難である爲めに僅少な實驗に依つて他のものに適用して結果付ける事が多い。之は感心しないところであるが今のところは已むを得ないのである。

鱒類の陸封されて居ることは事實である。例へば琵琶湖の小鮎の如きものであつて之は純然たる陸封であることは

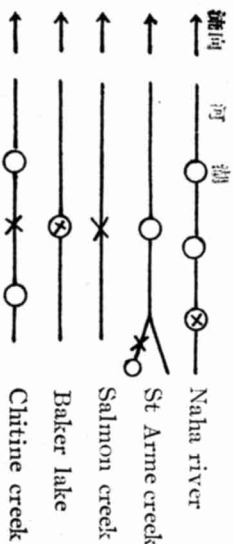
滋賀縣水産試験場の試験や石川博士の研究に依つて之を養殖して大きくすることが出来た。然らば一休鱒類の陸封は如何にして出来たかと言へばこの事に就ては二十一年前に始めてノールウエーのダール氏が研究して解釋をつけた。その試験した魚は現在では池中養殖されて居ないところの Salmo salar である。又アメリカの太平洋沿岸に在るセバゴ湖に於てセバゴと稱せらるゝ鱒の陸封が發見されたが研究の結果之は大西洋鮭即 Salmo salar と同一の類類である事が解つた。これは鱒類の性質は地方の状況に慣れ易く従つて其の状況に應じて形態を變化する爲である。故に鮭鱒の分類は學者に依つて非常に異なるものがある。英國のリガンは疎に米國のジヨルタンは密に分類して居る。日本に於ても田中博士は大きく脇谷博士は細く分類されて居る様な次第である。

太平洋の鮭鱒の中で陸封になつて居る種類は紅鱒であつて之は方々に見られ研究材料とされて居る。現在では歐洲日本で陸封鱒の各種のものが養殖され殊に米國太平洋沿岸のシヤスター川原産の虹鱒は我國に移殖されて近來盛になつた。此虹鱒が我國に始めて移殖されたのは一八七七年で可なり古く歐洲ではこれから十年も後に移殖したが古く移殖した日本は當時の取扱ひが粗雑であつた爲め後に移殖した歐洲に比較して却つて養殖に就いては劣つてをる。

海水は淡水より比重大なる故に魚の下降や遡上に關係ある。又水溫に付いて觀れば紅鱒は河を遡上する時にその河流が二本股になつて居る場合には低水溫の方を選ぶ。カナダの學者は紅鱒は湖水を伴はない河には遡上しないと云ふて居るし又水の汚染された所には上らないと云ふがワード氏は他の條件がよいと遡上すると云ふてをる。

鮭鱒は孵化した所へ必ず歸つて來るか否かは大分研究論議されて居るがカナダの學者は必ず歸ると云ひアメリカの學者は歸つて來ないと云ふ。ワード氏は別に否定しないが肯定もしてない。が而し寧ろ否定の方に傾いて居る。然しこの問題は非常に六ヶしいから兩者の説が一つになるには今後相當長い期間を要すると思ふ。

紅鱒は必ず湖水の中でないと卵を産まないと云ふ事はない。その説明には次の様な圖で示してをる。×印は産卵個所を示す。



最近アメリカのワード氏がアラスカに於て種々研究して陸封に對する一説を發表して居るが未だ食ひ足りない所がある。それは實驗が充分出來ないのと氏は水の物理的性質や魚の生理學的性質には相當注意して居るが水の化學的性質に重きを置いてない事であるが然し現在では氏の研究が最も進んで居ると認めらるゝからその説を紹介し且私の考へを附け加へてお話しして見度い。

一休鮭鱒族の魚類は河川に産卵孵化して出來た稚魚は海に下り又産卵の爲に後に河川に遡上する性質を有してをるがこの性質を一變せしめて産卵孵化及成育を淡水の中で終らしめる事が出来る。それは習性の變化に依るものであるが一口に習性の變化と言ふけれども我々の眼に觸れる習性は種々の因子の結合したものであるからその因子を分析して考へねばならない。即各因子が魚体に働いて生理的現象となるのである。因子の一である水流が一の刺戟となつて魚の生涯の或時期の行動を支配する。つまり鮭の川を下ることがそれである。成熟すると流に向ふ行動を取るのには稚魚時代の流に順ふ性質と正反對の官能であるが流がないと河中に於ける様な活潑なる行動を取らない。尤も流れにも深淺に依る水溫の差や河と海との差や河水は弱酸性で海水はアルカリ性である。之等のことも一の刺戟となるが之に關してはワード氏は言及して居ない。

遡上産卵は何れの場合に於ても水溫に支配されるのであるが孵化後は水溫よりも寧ろ流に在る食物に關係する。

陸封も水溫に關係あつて昔氷河時代に北方の河口迄氷が在つた時代に於て鱒は河口で産卵したであらうと想像される。其の後氷が融けた爲めに以前と同様の冷たい水に誘致されて上流の湖水迄遡上して産卵する様になつたが河は何等かの變化が起つた爲めに遮斷されたので孵化した稚魚は下流へ降る事が出来なくなつた。湖底の水溫は終年四度を示すが表面の水溫は年中變化し中層は年中一定の水溫を保つてをる。鱒は夏季水溫の上昇に連れて生活に適した下層の低溫區域に下つて行くが底には水流がない爲にその刺戟に對する適應がなくなり河に下らないがホルモンの刺戟があるために沿岸の産卵に適した所に來て産卵するから湖が鮭鱒の生活に耐へ得る低水溫の深層を有すると陸封が創造されるのである。そして陸封された魚体は自然のそれよりも小さいのは湖水の生産力が海を生産力よりも少いからである。即紅鱒に對する鮭鱒大鮭に對する小鮭がそれである。

陸封の實驗はワード氏はベーカー河に大なる堰堤が出來るの後は自然に深い沼になりその中の鱒が如何になるかを觀察した。これに依れば始めは上層に居たが漸次低水溫の下層へ移行して生殖時期に淺い所に來て産卵した。その時の魚体は小さくなつて居た。孵化した稚魚は一、二年は姿

を見せないが産卵期になると適當なる處に來て産卵することとは自然のものと異ならないと云ふ事に依つて陸封を實驗したのである。

鮭鱒の様に美味で且營養價の高いものが湖水に養殖出來る事は我々水産に従事する者にとつて喜ばしい事である。殊に紅鮭は色彩が美麗で肉の色が赤いので外國では賞美さ

北見地方の鮭鱒孵化事業に對する障害

小林 教 司

或産業の生産額が他の産業のそれよりも多いとしても一方を他方の犠牲に供することは國家的見地から果して策を得たものであらうか犠牲に供すると云ふ考へからでなくとも其の結果が他を壓迫破壊する事となるのは大いに考慮すべき問題と思ふ。

自然の影響を受くる事多い水産業就中鮭鱒の蕃殖事業は近年著しく隆昌を來たしたる各種工場廢液其の他の爲に河水の汚濁、産卵床の荒廢、稚魚の灌漑溝流入等に依る被害著しく増加して來た。近い例を擧げるならば、舊十勝孵化場が製糖工場の廢液の爲に他に移轉するを余儀なくされ

れてをる。この肉色の赤いと云ふ事は營養と重要な關係がある。肉色の赤いのはカロチンを含有するためであるがこのカロチンはビタミンAを多く有するものであつて、之が鮭鱒類の肉の營養價を大ならしむるのであるから肉の色の赤味の濃淡は要するに營養價の大小に比例するものである。(後略)

た。北見幌別孵化場が澱粉工場廢液の爲に親魚遡上數を減じ終に事業を中止するに立至つた。その他木材流送、製紙工場金銀の精煉所、灌漑溝の設置に依る障害等算へ來れば應接に暇ない位である。

左に北見地方に於ける主なる障害に就て概記して讀者の參考に供して見度いと思ふ。

一、湧別川と灌漑溝

本誌第一卷第二號に湧別川各灌漑溝鮭鱒蕃殖の被害調が記載され天然産卵床荒廢の實狀が詳しく述べてあるから此處には省略するがこの灌漑溝の爲に孵化場(現北見支場)

附近一帶は水田と化し其の排水然も春期水田攪拌の際の泥水が孵化場の生命とする水源に流入し時恰も放流期の稚魚に多大の影響を與ふるのみならず泥土は沈積して孵化期に浮泥となつて卵に附着し窒息死に至らしむるのである。

一面から觀てこの灌漑溝に依り農家は決して多大の恩恵を受けて居らない。と云ふのは此地方の水田は創始以來七回の收穫の中農作が一回平作に近いのが一回何うにか食糧となる位の收穫あつたのが一回で他の四回は凶作で中二回は殆ど收穫皆無と云ふ實に慘たるものである。之に加ふるに土地が水分を多く含む爲に以前は余市地方に次ぐ林檎の産地として誇つた林檎樹が漸次枯死する、薄荷の栽培が衰微する而して小學校兒童の三分の二は欠食してをると云ふ事になつたのは如何にも皮肉である。

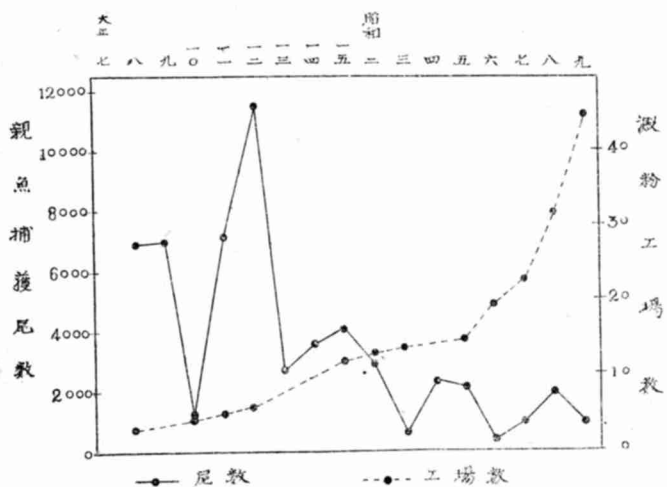
要するにこの地方の灌漑溝は孵化事業に障害を與へたと同時に農家に對しても何等の貢獻をして居ない。漁業、農業共に多大の損害を蒙つたと云ふに歸する。

二、斜里川の鮭遡上と澱粉廢液

本川にも灌漑溝の問題はあるがこれは本誌第一卷第三號に大體記載されてあるから省略するが此處では近年著しく盛になつた澱粉製造工場に就いて述べて見る。

昨年の調査に依れば沿川の工場數は約四十箇所、多くのは廢液の處理施設を欠いてをつて直に河川に放出す

る。殊に河川汎濫の場合には腐敗した粕や汚物を混入し河水は惡臭を發する位で親魚の遡上期に際會して多大の影響を及ぼしてをる。これを事實の上から證明するには次の表に依れば一目瞭然であらう。



此の表に觀る通り澱粉工場數の増加と反對に鮭捕獲數は漸減して大正十一、二年頃六七千尾の漁獲あつたものが工場數の増加せる近年は千尾内外となつた。この儘に放置しておけばやがて本川も幌別川の二の舞を演ずる様になるのは明かである。斯うした例は他の河川にもある事と思ふ。

出したので嶺山は紋別沿岸の鮭鱒漁場を買収して一時を彌縫したが本年又々この事あつて問題を惹起し賠償金を以て解決した次第であるが斯うした被害が時々起ることは決してよい事ではない。更に根本的な解決を要するものと認められる。

三、頓別川と砂金採取
本川の上流一帯は砂金鑛區であつて殊に孵化場に近い支

六、其の他
以上の外渚滑川、網走川、常呂川等にも灌漑溝、澱粉工場、木材流送等の被害は認められる。

流ウツタン川の上流は往時より著名であつて昨年は毎日百五十名乃至二百名の入夫が河底と言はず河岸堤防と言はず土砂を發掘するため河流は泥色に濁濁し下流河底は一帯に泥質と化し産卵床を失ひたるのみならず上流河底の低下著しきため孵化場湧水は湧出水頭を失ひ昨年七月より水量を激減し冬季には全く涸渴し多數の卵の處理に困難を來たしてをる。

斯うした各種の障害は年と共に増大されて行くときは北見地方に於ける鮭鱒漁業の將來に對して暗影を投ずるものであることは改めて記述するまでもない。之に對しては法規の整備や障害除去に關する基礎的研究や孵化事業の整備擴充も必要であるが更に漁業者自身の問題として研究し對策を考へると共に障害を與ふる産業側に於ても共立共存の趣旨で進む様充分の理解を得らるゝ事を切に希望する次第である。

四、徳志別川と木材流送

本川の木材流送は春季の融雪水待つて開始され毎年二万餘石を流送するものでために産卵床を荒さるゝのみならず流下稚魚にも障害となる。勿論河口附近では木材の滿塞で親魚の遡上をも阻むのである。近年同川の親魚遡上の不振は之に職由するものと思はれる。

五、藻幣川と金製煉所

鴻之舞金山の製煉所廢水が本川に流入して多大の死魚を

樺太鱒千歲川にて捕獲せらる

北海道鮭鱒孵化場

櫻 井 基 博

千歲川で樺太鱒が捕獲されたと云ふ事は、土人の古老より極稀にあると聞いて居るが、眞疑を確かめる機會がなかつた處、本年十月二十七日、本場附屬西越捕獲場に於いて始めて捕獲されたので、後日の爲め左に記載して置かうと思ふ。

性別	♀
年齢	2年生
体重	2.1kg
全長	58.0cm
体長	52.0cm
頭長	12.3cm
吻長	3.8cm
眼徑	1.1cm
体高	12.5cm
体幅	5.5cm
尾柄高	4.0cm
背鰭條數	11
臀鰭條數	15
鰓條數	13
鰓把	31

体色は背部蒼綠色、側線下方は銀白色、鰓蓋より下顎にかけて淡桃色を呈し、体側々線下に到りて稍薄く、後方尾部に到り鮮明である。腹鰭の基底も亦同様。背部、脂鰭、尾鰭に數多の楕圓形黒色斑點がある。卵巢は既に成熟して

居て、指頭にて壓すると容易に放卵した。卵徑六耗、黄赤色にて櫻鱒卵と異なる所がないが稍小形である。
樺太鱒は從來北海道では、大体に於いて日高、釧路、十勝、根室、千島、北見沿岸、即ち太平洋、オコーツク海方面の河川にのみ遡上するものと思はれ、日本海方面の河川例へば天鹽川、石狩川等に遡上する事は極く一部の人が知つて居るのみで一般には知られて居らない。然し石狩川にも相當遡上する事は本年六月、本場在勤岡田萬氏の石狩河口に於ける鱒調査の際、愈々確かめられた。石狩河口では七月初旬より八月中旬にかけて現はれるもので、該地方では夏鱒、セゴイマス、ヒゴイマス等と稱して居る。丁度その頃河口では鱒漁業期間終了後である爲に、唯小規模なる他種漁業の曳網により僅かに漁獲さるゝに過ぎないが、上流江別附近に於いては、屢々一日の漁獲、數百尾に及ぶ事があるさうであるから、相當に厚く石狩川に遡上して産卵

するものであるらしい。唯それにも拘らず千歳川で殆んど捕獲されたのを聞かないのは比較的下流、或は千歳川以外の河川に産卵床を索むるによるものと思はれる。石狩河口の漁業價值を高むる目的並びに本道西海岸へ増

移殖年月日	移殖卵數	放流年月日	放流尾數	種卵產地
昭和二年十二月	三〇〇萬粒	昭和三年三月	二八四萬七千五〇〇尾	千島國留
昭和三年十二月	二〇〇萬粒	昭和四年四月	一二〇萬〇〇〇〇尾	別川産

殖を計る目的をもつて、次表に示す如く、先年前後二回樺太鱒の放流試験を行つた。その結果一時は漁獲が石狩河口附近で數千尾に上つた事もある。然し樺太鱒の石狩川に於ける廻上は昔から多少あつた事は前述の通りである。

○フリストル灣出漁問題

北米プリストル灣に鮭鱒出漁は合同工船、林兼商店共の他から農林省に許可を出願したが對米關係や現在の沖取漁業との關係を考慮してか許可にならなかつたが最近更に他方面より出願したとかの噂あり之を巡つて業界の注目を惹いてをる。

○擇捉の鮭鱒漁業更生陳情

近年の同島鮭鱒漁業の不振打開の爲に先般八木澤水産會

長其の他が北海道廳長官や開會中の北海道會に陳情した。又道會に於て玉置議員より本件に付質問あり當局は善處する旨の答辯があつた。尙農林省へも陳情し適當措置を探られんことを願つた由。

○日ソ漁業條約改訂交渉の停頓

本件は目下モスコウに於て交渉中なるがソ國は日本側の沖取漁業の廢止とか蕃殖保護の關係とか漁區の減少等を諷して我權益の縮少を目論見てか容易に進捗せず。今のところ目鼻のつく日は豫測出来ない状況である。

趣 味

鹹 淡 往 來 (二)

海 原 范

寒夜秋味禍 (ラヂオ風景)

とある河畔の丘の上のいぶせき一軒家。あたりは細らしい野原だが一面に白雪に覆はれて樹としてはなく枯柴が所々に立つてをる。

居間の端の爐の側に薪ストーブが赤く燃えてかすかな音を立ててをる。ラムプの光は鈍く古ぼけた空をボンヤリ照してをる。ストーブの前に白髪のおけた母親は膝に兩掌を組んで載せてうつむいてをる。向側には十五六才の男の子が髪を蓬々と延ばし兩耳に覆ひかぶさつて繪に在る河童の様な影を横に大きく投げ出して坐つてをる。

戸外からは河の流れの音が絶えず涼々と聞えて居るが時々偶バリーンと大きな音がする。立木が割れる音で靜かな恐ろしく凍る夜の十時頃。

「兄様は遅いな、どうしたろ」

「……………」
母親は之に答へない。

戸外で犬が急に吠え出した。兩人はハッとお互に眼を合す。母親は不安らしく立上つて窓の障子を細く開けて外を窺ふ。犬は益々高く吠える。間もなく亂れた足音に續いて入口の戸がドン／＼叩くと殆ど同時に戸が開く音。

スーッと寒い空気が這入つて来ると共に黒い二つの影が近づいて来る。サラ／＼と外套の裾が凍つた音を立てて。

「オイ、圭太郎は何處へ行つたか」

「夕方市街へ用事あつて出て行きました」

「近頃毎晩市街へ行くのか、何の用事があるんだ、晝間は寝てをるだらう。」

「晝間は山へ稼ぎに行つてをります」

「嘘をつけ……………今迄秋味を何本密漁したか」

この間に一つの影は懐中電燈で土間の廻りを見まはす。犬は外でまだ吠えてをる。

母親はオロ／＼聲で。

「私は何も知りません、コレ三平お前はもう寝れ」

男の兒は立つてガダピンと板の間を通り破れた唐紙を開けて次の間に引き込む。

「太い奴だ、嘘を吐くと承知せんぞ、君そこらを探して見よう、オイ家探しするぞ、ウン、オイ犬を縛れ」

○昭和十年度北千島鮭鱒漁業成績

本年度同島に於ける鮭鱒漁業は紅鱒の凶漁により前年度の如き採算には行かなかつたが鱒の異常なる増獲と鮭も亦多かつた爲めに幾分緩和された様である。北千島水産會調査に依る漁獲尾數を示せば左の通り

種類	流網	延縄	建網	計	摘要
紅鱒	八三、五八	九、〇七	六七、九三	八〇、五五	
銀鱒	六九、二五	八、五五	九三、五〇	七〇、九六	
鮭	四、五七、六三	六、三〇	一、〇九、四六	五、七五、五八	
鱒	九、八八、三三	七、八八、二七	二、八六、五三	五、三三、六八	

右漁獲は流網二百隻、延縄七八隻、建網三七統に依るものであつて前年度に比較して延縄七隻、建網一七統の増加を見た。而して右漁獲物の価格は三百四十万八千七百圓である。

漁獲物の製造は

罐詰 四十一万九千八百圓

○昭和十年度鮭鱒孵化事業概況

本年度十二月末日現在北海道鮭鱒孵化場鮭親魚捕獲採卵成績は左表に示す通りであつて捕獲數三六四、二二五尾、採卵數二八〇、八五八、〇〇〇粒である。之を前年度同期に比較すれば捕獲數に於て三七、三七一尾、採卵數に於て一〇、四七七、二五〇粒の減少である。

一月に於て採卵を見るは本場(千歳)、根室地方各孵化場に左に孵化場別成績を示す。

場名	捕獲		計數	親魚		採卵	摘要
	♀	♂		♀	♂		
本場	三、六五五	一〇、〇〇四	三、七五九	一〇、二六五	四、二四	三、〇〇〇	六、〇七、六〇〇
尻別	五三三	八六八	一、三七二	四八六	四三二	一、〇〇〇	三、九七、五〇〇
朱太	九四一	一、四四九	二、三九〇	七三六	五四八	一、九七五	七、五〇、〇〇〇
利別	一、八二一	一、八四二	三、六六三	一、二四二	四八六	三、〇七五	三、三三、五〇〇
遊樂部	三、七三六	九、九九六	一三、七三二	九、〇〇三	四、九一八	三、八七〇	一一、一〇、〇〇〇
敷生	一、六八九	一、五九六	三、二八五	一、八六六	五四五	三、三九五	二、三〇、〇〇〇
勇拂	五四三	一、二一六	一、七五九	五三三	二六七	一、二〇〇	一、四七、五〇〇
新冠	五〇〇	二九五	八五五	三五四	一三六	七八七	一、〇〇、〇〇〇
染退	八、二〇三	三、四六九	一一、六七二	四、〇八	一、五六	一〇、一〇〇	八、五九、〇〇〇

鹽藏 七百〇四万七千八百四十圓
 二千五百万八千四百四十三圓
 四百二十二万九千二百六十六圓
 筋子 五百百七十三圓
 七十五万二千五百九十九圓
 合計 一千二百〇二万九千七百〇一圓
 の巨額に達した。

○標識鮭の再捕

北海道水産試験場に於て鮭鱒の洄游調査の爲め各地にて標識魚を放流して居るが本年十一月二十七日に日高國染退河口附近土屋漁場に於て三尾捕獲其の後標識札脱落せるもの數尾を捕獲した。又遊樂部川に於ても札の脱落せるもの一尾捕獲されて居る。前記の三尾は十月二十六日十勝國廣尾沖で放流したものであるから一ヶ月で日高靜内方面に洄游したことがわかる。後記の札を有せざるものも恐らく同時に放流されたものかも知れない。

であつて之が相當數に上る見込であるから終了迄には豫定計劃の三億粒採卵に達する豫想である。

本年の捕獲採卵數の多かつたところは遊樂部、敷生、染退、幌別、十勝、標津、伊茶仁、蕪別、目梨、東沸、網走湧別、有萌等であつて、大体に於て太平洋沿岸が好況でオコトク海岸岸之に次ぎ日本海沿岸地方は最も劣り然も前年度よりも悪かつた。之は漁況にも略々一致するところであつて斯界の注目を惹くに足る。

三石	四六	三三	七九	三五	一九	九七、五〇〇	五三、五〇〇	十二月十六日終了
元浦川	三二六	二五五	五七一	三二〇	一六六	六六五、〇〇〇	一、二七、五〇〇	十二月三十日終了
幌別	一、一八五	七七	一、九三	一、一四〇	四〇三	二、九六二、五〇〇	九八〇、〇〇〇	十二月卅一日終了
天鹽	一、四九五	一、二六七	二、七〇三	一、〇四七	四一〇	二、七一〇、〇〇〇	二、一〇一〇、〇〇〇	
虹	八、四六六	一、八、四六九	二七、二九五	七、三三二	四、二三四	一五、一五、〇〇〇	一九、八〇〇、〇〇〇	十二月廿一日終了
十勝	一、九九六	一、四八四	二、四八〇	五、五三七	二、三三一	三、九三三、〇〇〇	三、六七、五〇〇	十二月廿一日終了
釧路	三、二二七	三、四八六	六、六四五	二、九五三	一、三六三	七、八四五、〇〇〇	九、一三、五〇〇	十二月廿一日終了
風蓮	二、六二六	四、三〇八	六、九六六	一、五八六	九九四	三、三三三、〇〇〇	七、〇七、五〇〇	十二月廿八日終了
當幌	一〇〇	三七	五三七	二六九	一四一	四九五、〇〇〇	一終了	
標津	一、九九六	一、六五五	三、六三一	一、七三三	一、〇九三	三、八六五、〇〇〇	三、九〇五、〇〇〇	
伊茶仁	九、六〇四	一、五八九	二二、八九九	五、七八〇	三、七九二	三、四一五、〇〇〇	九、四三、〇〇〇	
薰別	三、七四一	三、〇七七	五、七六八	一〇、四三三	一〇、八六三	二五、七八、五〇〇	五、一六、〇〇〇	
目梨	一、一七三	一、六二二	二、七九三	九〇五	五五七	二、一〇二、〇〇〇	七、六七、五〇〇	十二月廿六日終了
北見	七、三二六	四、七七三	二二、〇〇〇	二、八九五	八六六	八、一三七、五〇〇	五、五七、〇〇〇	十二月十日終了
斜里	四八八	四九七	九四五	三八八	二二四	一、〇〇二、五〇〇	一、六六、〇〇〇	十二月三十日終了
網走	一〇、九七五	二、六三三	三、六二八	四、六六六	一、九八〇	一〇、九三、五〇〇	三、〇三、〇〇〇	十二月三十日終了
常呂	四、七〇七	八、三五五	二、四四三	一、八一	九六〇	五、五四二、五〇〇	九、九六、〇〇〇	十二月八日終了
徳志別	四九〇	七二二	一、二二二	一七四	五〇	五、〇〇〇、〇〇〇	三、七、五〇〇	十月三十一日終了
頓別	二、七六九	二、八六六	五、四四五	二、三三六	一、〇三三	五、〇〇〇、〇〇〇	七、三〇、〇〇〇	十二月五日終了

國後	三、六七七	一四、〇六四	二七、七四二	八、七八八	五、五二二	一八、〇七五、〇〇〇	三三、五〇〇、〇〇〇	十二月廿五日終了
二木城	一、六七七	一、七六九	三、七三六	一、六四八	一、〇三	三、一〇〇、〇〇〇	一、八〇、五〇〇	十二月廿五日終了
香根別	一、八三三	三、〇九八	四、九二〇	一、三三五	四八〇	二、八三三、五〇〇	一、三五、〇〇〇	十二月二十日終了
泊	三二八	四六七	七九五	三〇四	一六五	六二八、〇〇〇	一、四〇、六五〇	十二月二十日終了
老門	三、九七一	三、四八四	七、四五五	三、六三三	一、五五	八、九〇七、五〇〇	三、〇〇五、〇〇〇	十二月十二日終了
羅白	二、四二四	二、四四二	四、八六六	二、五三三	一、五七	五、八七、五〇〇	六、〇〇七、五〇〇	十二月十二日終了
年那	二、一七九	三、四六六	五、六四五	二、七九	七七二	五、〇〇〇、〇〇〇	七、九三、五〇〇	十二月十六日終了
紗那	一、三〇九	二、〇五八	三、三六七	一、〇九五	六〇三	一、六四〇、〇〇〇	四、七、五〇〇	十一月廿九日終了
有萌	二、〇八七	四、二〇八	二、八八五	七、四三三	三、八三八	一五、二七、五〇〇	一九、五三、〇〇〇	十一月三十日終了
別飛	三、七六四	四、四三九	六、二九五	一、八三	九五一	三、七三五、〇〇〇	二、二、四〇〇、〇〇〇	十一月三十日終了
當路	二、五二七	二、六七七	五、二四四	三、七八四	二、六七	八、八九七、五〇〇	七、二三、〇〇〇	
比良系			三、九七八	一、九六六	一、六三	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	十二月十五日終了
計			三、六四、三三五			二〇、八五八、〇〇〇	二九、三三、二五〇	

○昭和十年度鱒鮭孵化事業概況

本年度北海道鱒鮭孵化場鱒鮭親魚捕獲採卵成績は左表に示す通りであつて捕獲數一六五、一一三尾、採卵數五九、九八七、〇〇〇粒である。之を前年に比較すれば捕獲數に於て五

九、八〇一尾、採卵數に於て五、三二七、七〇〇粒の減少である。之は豫期に反し樺根、根室、北見地方に於ける樺太鱒の來游稀薄に基くものである。

興部	天ノ川	厚澤部	尾幌	長流	知内	吉嘉内
捕獲	462	455	331	1,556	1,681	766
計數	301	368	254	1,108	355	955
親魚數	555	833	655	2,744	355	1,681
採卵數	254	388	309	1,200	1,677	555
摘	254	283	191	955	66	196
要	55,000	60,000	500	2,155,000	2,155,000	731
	十二月十六日終了	十二月二十二日終了	十一月末日現在	十二月十六日終了	十一月末日現在	十一月末日現在

○昭和十年度民營鯿鮭孵化事業概況

孵化場	捕獲	計數	親魚數	採卵數	摘	要
堀株	2,354尾	2,354尾	1,911尾	543尾	543尾	5,700,000粒終了
興部	354尾	354尾	279尾	177尾	177尾	2,155,000粒
冷葉白	3,105尾	3,105尾	2,611尾	833尾	477尾	1,200,000粒
紅得茂別	3,634尾	1,868尾	5,823尾	2,155尾	2,155尾	11,200,000粒終了
阿寒湖	1,486尾	73尾	1,311尾	51尾	51尾	5,700,000粒終了

鯿	屈斜路湖	捕獲	計數	親魚數	採卵數	摘	要
		55	23	190	46	40	150,000粒終了

備考 洞爺湖鯿鮭は親魚減少せる爲め採卵を爲さず。

○支笏湖鯿鮭親魚の減少

本年度支笏湖に於ける鯿鮭親魚の回歸數は著しく減少し十月十一日より十一月十五日に至る間の捕獲數雌一、四二一尾、雄二、一八九尾合計三、六一〇尾採卵數三九二、五〇〇粒に過ぎない。前年度の捕獲數二二、五四〇尾、採卵數二、七四五、〇〇〇粒に比較して問題にならない。此原因に就ては今春より初秋にかけて濫釣された爲と觀られる。大正十一年度より五ヶ年間支笏湖保勝會に捕獲を一手に許可して濫獲されたために大正十四年度以降六ヶ年間親魚は殆ど皆無となり他より種卵を移植して數年前より漸く恢復した矢先に再びその徹を踏むに至つたことは遺憾である。釣獲に相當制限をしないことはこの悲況を招致したものである。

本年度の採卵不足は得茂別産紅鯿卵五十万粒の移植を以て補充したが聊か泥繩の譏は免れないだらう。

○網走孵化場の公開と親魚廉賣

北海道鯿鮭孵化場北見支場附屬網走事業場鯿鮭親魚捕獲を委託されてをる網走鯿鮭養殖水産組合の獻策協力に依つて來る十月二十七日孵化場を一般に公開したところ網走町及附近の人々は早朝より薄暮にかけあらゆる階級の參觀あり同町空前の賑ひを呈した。參觀人員五千人と日東新報は報じてをる。接待幹旋は同組合長井筒氏外役職員の總動員により効果甚大なるものがあつた。

尙同組合は採卵後交附を受けた親魚を網走町民に安價に提供し度いと云ふ趣旨で十一月十五日午前十時より一般に廉賣し多大の好評を博した。

以上孵化事業への一般人の關心を呼び起す方法として効果あつたことを斷言する。

○本會顧問委囑

本年度總會の決議により左記の通り本會顧問を委囑せり
 農林省水産局 農林技師 徳久三種
 北海道水産試験場長 倉上政幹
 理學博士 藤田經信
 函館高等水産學校長 佐々茂雄
 北海道廳水産課長 新井藤一郎
 小樽水産學校長 飛島貫治

○事務委員の囑託

本會事務處理のため左記七氏へ事務委員を委囑せり
 北海道鮭鱒孵化場 谷口達三(庶務會計)
 全 岡田 雋(編輯)
 全 升田 清(庶務、編輯)
 北海道廳水産課 内海重左工門(庶務、編輯)
 全 奥村 清(編輯)
 北海道水産會 菊地覺助(庶務、編輯)
 札幌市 山本 務見(編輯)

○地方委員の囑託

本會と地方會員との連絡を圖るため各地方に其の衝に當る委員を設置する事となり左記の通り委囑した。
 擇捉島水産會
 單冠灣漁業組合
 羅臼鮭鱒養殖組合
 國後養殖水産組合
 留夜別漁業組合
 根室鮭鱒養殖水産組合
 厚岸鮭鱒養殖組合
 釧路國水産會
 十勝鮭鱒養殖水産組合
 網走鮭鱒養殖水産組合
 紋別鮭鱒養殖水産組合
 枝幸鮭鱒養殖水産組合
 浦河漁業組合
 新冠漁業組合
 三石漁業組合
 日高水産會
 膽振水産會

遊樂部鮭魚養殖組合

知内村長
 上ノ國村長
 壽都漁業組合
 石狩漁業組合
 天鹽鮭鱒養殖水産組合
 北海道鮭鱒孵化場擇捉支場長
 全 國後支場長
 全 虹別支場長
 全 北見支場長

○會員消息

△新入會員

佐々木正三 北海道鮭鱒孵化場員
 江口弘 全
 大久保司 全 新冠事業場員
 鈴木靜一 全 三石事業場員
 片桐正吉 全 幌別事業場員
 高山忠美 全
 石井昌衛 全
 蟹澤武雄 全
 北見國紋別郡上湧別村開盛
 北海道鮭鱒孵化場北見支場員
 全 北見國常呂郡野付町兵村四區
 北海道鮭鱒孵化場常呂事業場員

○會費領收報告 (十二月十日迄)

△十年度分
 鴨川豊 毛利八百藏 中村永一 升田清 會田庄藏
 佐野誠三 石田竹彦 飯泉功 谷口達三 鈴木靜一
 竹林龜太郎 飯田毅
 △九年度分
 鴨川豊 新妻六郎 毛利八百藏 高橋恒藏 吉野知道
 水戸部勝次 大友涉 齋藤憲彰
 △八年度分
 鴨川豊 新妻六郎 毛利八百藏 高橋恒藏 幸内慎治
 郎 水戸部勝次 齋藤憲彰
 △七年度分
 鴨川豊 新妻六郎 高橋恒藏 幸内慎治 水戸部勝
 次 齋藤憲彰
 △六年度分
 新妻六郎

會長小池仁郎氏 一月二十四日御逝去ノ

訃報ニ接シ不取敢本會ヨリ弔電ヲ發シ
 哀悼ノ意ヲ表シタリ

會 告

◇會費未納の方は至急納入を乞ふ。

◇本會發行半田芳男氏著「鮭鱒人工蕃殖論」の購讀申込は各方面より來るが本書は已に品切れです。同氏は更に増補改訂の稿を起してをるにより改めて發行を御知らせする。

◇本會發賣の鮭發生標本も品切れとなり目下製作中なるにより改めて發賣を御知らせする。

◇本誌附録會員名簿は孵化事業協會々員を其の儘採録せるものであるから本協會に加入御承諾なき場合には遠慮なく其の旨御回報を乞ふ。

○寄稿 歡迎

一、論說、資料、趣味、地方狀況の各欄及寫眞、圖表等に關し寄稿を歡迎す。

一、本誌に掲載せるものには薄謝を呈す。

一、論說、資料の各欄に掲載せる分の別刷は御希望に依り三十部を限り無代進呈す。

一、原稿用紙は申込次第郵送す。

昭和十一年一月廿五日印刷
昭和十一年一月三十日發行

編輯兼 發行人 半 田 芳 男
札幌市北二條西七丁目一番地

印刷人 渡 邊 長 八
札幌市外苗穂五十番地

膽振國千歲村北海道鮭鱒孵化場内
發行所 北海道鮭鱒保護協會

謹 賀 新 年

弊所特製『漆塗孵化盆』 其他孵化盆
孵化槽、孵化枠、受卵器、各種染料
漆、アスファルト(流動)、テレホン油、塗料類
亀甲紗(卵掬用)、採卵海綿、標本瓶
卵子消毒藥各種、化學藥品、醫療藥品
孵化場用印刷物一切、父子堂製劑
虹鱒、鮎、鯉等ノ孵化用器具一式

鮭鱒孵化器製造元

山本勝見工作所

札幌市北三條東六丁目電停前

電話 フゴのフナ 二五二七番

振替小樽 三九七八番